



うれしの

2018.11

第57号

【発行所】
嬉野医療センター
佐賀県嬉野市嬉野町
大字下宿丙2436番地



「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ（嘉瀬川河川敷）」

基本理念

「ひとり一人を大切に」

医療は患者さんの為のものであり、安心で安全な医療の実践が必要である。ひとり一人を大切にするとは、この医療の実践に重要である。この「ひとり一人」は、患者さんのみならず当院に関係する全ての人たちを指し、ひとり一人が大切にされることによって、ひとり一人が周囲を大切にする。このようにして、当院は人命を尊び人格を敬って医療に携わっていくものである。

運営方針

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 迅速で質の高い医療 2 安全で安心な医療 3 地域医療構想に基づく医療 4 患者さんの権利を重視した医療 | <ol style="list-style-type: none"> 5 適切な病院機能の更なる継続 6 経営基盤の確保と新病院建設 7 将来を担う医療人の育成 8 臨床研究と治験による医療への貢献 |
|---|---|

患者さんの権利

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 2 疾患の治療等に必要の情報を得、また教育を受ける権利 3 治療法を自由に選択し、決定する権利 4 プライバシーが守られる権利 | <ol style="list-style-type: none"> 5 常に人としての尊厳を守られる権利 6 医療上の苦情を申し立てる権利 7 継続して一貫した医療を受ける権利 8 生活の質(QOL)や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |
|---|--|

嬉野医療センターのスペシャリスト



「緩和ケアについてご存知ですか」

緩和ケア認定看護師の活動について

がん対策室 副看護師長(緩和ケア認定看護師) 小森康代

私は、佐賀県のがん診療連携拠点病院のひとつである嬉野医療センターで、緩和ケア認定看護師として活動をしています。

主治医から緩和ケアチームへ依頼された患者さんやご家族と初めてお会いするときに、大切にしていることがあります。それは、「緩和ケアについてご存知ですか」とお伺いし、緩和ケアの捉え方次第で、訪室したことを不安に思ってしまうのではないかと確認することです。患者さんからは、「聞いたことがあるよ」と言われる方もいますが、中には「治療の手立てがなくなってから受ける医療」と答える方も少なくありません。そのようなときは、患者さん・ご家族が安心して緩和ケアチームを活用していただけるよう、緩和ケア＝終末期医療ではない事を説明させていただいています。

改めて、緩和ケアについて説明いたします。緩和ケアとは、一つは、生命を脅かす疾患による問題に直面されている患者さんやご家族のQOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質、生命の質）を改善するアプローチのことをいいます。対象者は、がん疾患の患者さんに限りません。もう一つは、苦痛な症状からおこる問題に早期から対応し、苦痛の症状緩和を実現していくサポートのことをいいます。早期からがポイントです。そのサポートを担当するのが緩和ケアチームになります。ホームページでも、緩和ケアチームの活動について掲載していますので機会があればぜひご覧ください。

人が感じる苦痛は、痛みやその他の身体的症状をはじめ、気持ちの落ち込みなど精神的な症状、仕事・経済・在宅療養など社会的な問題に対する苦痛、自分が存在する意味や生きることのつ



らさなどスピリチュアルな症状があります。私は、苦痛な症状を緩和する目的は、患者さんがその人らしい日常を取り戻すための一手段であると考えています。日々、患者さんのお話を伺いながら、日常を過ごす上でどんな

ことに困られているのか、どうすれば苦痛な症状が緩和できるのか、患者さんと一緒に目標を立てます。それに向けて医療チームが一丸となってサポートしていくケアを、緩和ケアチームや緩和ケア委員会、カンファレンスで談義しています。

さらに地域の皆様と信頼関係を深めていく医療・看護が求められている今、医師や看護師、コメディカル、地域の皆様と、顔の見える関係を大切にしたい緩和ケア活動を目指していききたいと思います。



心臓リハビリテーションのご紹介

リハビリテーション科 理学療法士 山田竜一郎

当院リハビリテーション科は理学療法士8名、作業療法士4名、言語聴覚士2名が在籍しており、各分野に対応した急性期リハビリテーションを行っています。今回は循環器の分野で専門的に行う「心臓リハビリテーション」についてご紹介させていただきます。

心臓リハビリテーションとは、心臓病をもつ患者さんへ運動指導、安全管理、危険因子管理、心のケアなどを総合的に行うものです。医師、理学療法士、看護師、薬剤師、栄養士など多くの専門医療職がかかわって、患者さん一人ひとりの状態に応じたリハビリプログラムを提案し実施します。

本邦では日本心臓リハビリテーション学会という会員数14,000名の大規模な学会があり、より専門的な医療を提供できる人材を育成すべく「心臓リハビリテーション指導士」という資格制度を2000年に発足させました。この資格の保有者は現在4,700名に上りますが、佐賀県南部エリアにおいては心臓リハビリテーション指導士が在籍し学会から心臓リハビリ実施施設の認定を受けている施設は現在当院のみです。

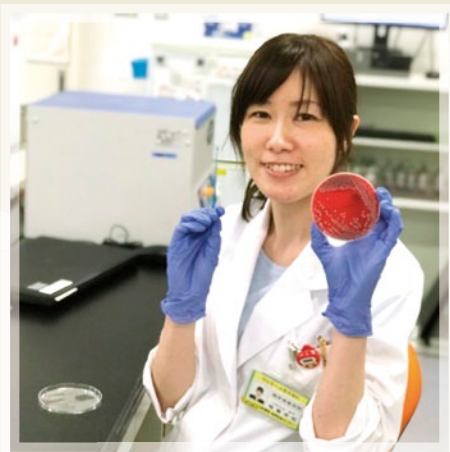


当院の心臓リハビリテーションは主に循環器内科と心臓血管外科に入院中の患者様が対象となります。因みに当院は佐賀県内において心臓リハビリテーションの処方件数が最も多く、大学病院をも上回ります。この結果は担当の医師と密に連携し理解を頂いている証でもあると思います。

心臓リハビリテーションにご興味を持たれた方は、ぜひインターネットで「心リハ」と検索してみてください。

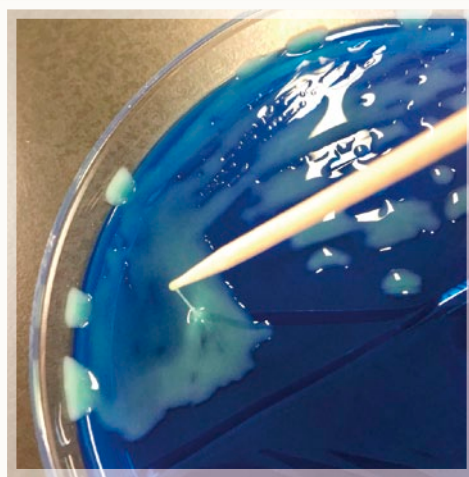
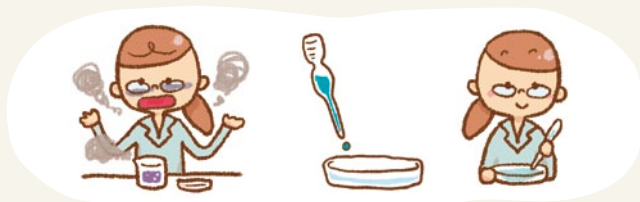
微生物検査に魅せられて

認定臨床微生物検査技師・感染制御認定臨床微生物検査技師
臨床検査科 稲富茉耶



「微生物」「細菌」と聞いてどんな印象を持ちますか？多くの方は「怖い」「汚い」「危ない」などというイメージがあると思います。もちろん危険な微生物もありますが、私たちの身体を守ってくれたり生活する上で必要不可欠な微生物もたくさんいます。微生物検査室では、微生物の中でも感染症を起こす悪い菌を見つけ出し、それを治療する為には何の抗菌薬が効くか調べる検査をしています。検出された微生物によって治療薬や感染対策が異なるため、原因菌を如何に正しく早く見つけ出すかが重要です。

微生物には数えきれないほどの種類がありますが、それぞれ色や形、臭いなどに特徴があるため、検査では視覚だけでなく写真のように触覚や嗅覚などもフルに使って菌を見つけ出します。この点が他の臨床検査の分野には無い難しい点でもあり、面白いところでもあります。



臨床検査には様々な分野があり、それぞれに認定資格制度というものがあります。その中でも微生物学に興味があった私は、認定臨床微生物検査技師と感染制御認定臨床微生物検査技師という資格を平成30年1月に取得しました。数ある認定資格の中でも、微生物の分野は受験までのハードルが高いせいか取得者が少なく、私もいつか受けられたらいいなくらいにしか思っていませんでした。しかし、日々業務していく中で知らない微生物に直面したり、ICT(感染対策チーム)の一員として感染対策に携わらせていただくことで、もっと専門的な知識や経験を身につけたいと思うようになり、その方法の1つとして認定試験を受験しようと決めました。試験では筆記試験・英文和訳に加え実技試験も行われるため、珍しい菌や新しい検査法を学ぶためにいろいろな所へ足を運んでは技術を持ち帰り練習を重ねました。試験本番では試験官の鋭い目が光る中、緊張で若干手が震えながらも無事合格することができました。資格を得たことで任される仕事も増え、視野も広がりました。認定試験を通して得た知識と技術を活かして、今後も当院の臨床検査と感染対策に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

第42回 九州地区国立病院薬剤師会 薬学研究会・総会に参加して



薬剤部 野口智宏

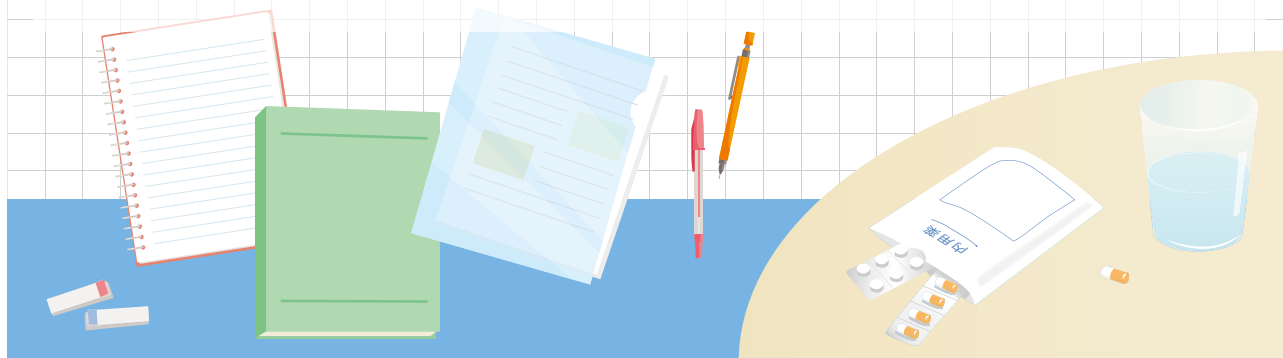
平成30年7月に九州医療センターで開催された第42回九州地区国立病院薬剤師会薬学研究会・総会に参加いたしました。この研究会はNHO九州グループ内で日頃の研究成果を発表したり、各施設との交流を深めるために毎年開催されています。研究会の中で、「ボルテックスを用いた懸濁法の有用性の検討」という演題で発表をいたしました。

当院では全病棟で昨年度より簡易懸濁法を実施しています。私が担当している東2病棟（脳神経外科・神経内科病棟）では、薬剤を経管投与している患者さんが多いため、投与時に簡易懸濁法を行うことがあります。業務で関わるうち、簡易懸濁法に興味を持ち、今回の発表テーマにしました。簡易懸濁法とは、錠剤やカプセルをそのまま内服できない方において、錠剤の粉砕・カプセルの開封をすることなく、約55℃の温湯に入れて崩壊・懸濁させた薬剤を経管投与する方法です。簡易懸濁法の利点として、払出し時、粉砕してないため薬剤の確認が可能、薬効・安定性の維持、チューブ閉塞の回避等が挙げられます。一方、破壊などの条件が必要な薬剤があり、手間がかかることが問題点として挙げられます。そこで、煩雑さを省くより簡便な方法のひとつとして、試験管の底部を高速回転して内容液を攪拌する器具（ボルテックス）が有用かどうかを検討し、発表しました。



今回の研究会では、口頭発表6分・質疑応答3分という短い時間の中で、自分の伝えたいことをまとめ、伝えることがいかに困難なことを痛感しました。また、発表準備にあたり不明点を調べ、解決していくことで良い経験となりました。

最後になりましたが、発表に至るまで、ご支援くださいました薬剤部の先輩方、病棟スタッフをはじめとする皆様に深く感謝します。



嬉野DMAT隊 頻発する災害に備えあり

西2病棟 峰 慎也

全国で大災害が頻発しており、被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げます。今年に入り、地震では6月に大阪北部地震、9月に北海道胆振東部地震が起きています。風水害に関しては、7月に広島・岡山・愛媛で甚大な被害をもたらした西日本豪雨、その翌月8月には近畿地方を中心に台風21号により大きな被害が起きています。この4か月の間に、大きな災害が立て続けに4件も起きています。今回、私たち嬉野DMATがこのような災害が起こった時、どのような活動を行ってきたかを紹介したいと思います。

大阪北部地震では発災直後より、統括DMAT隊員を中心にDMAT災害対策本部を院内災害センターに立ち上げました。テレビやEMIS※1からの情報収集や、救急車の物品確認等を行い、すぐに出動できるように待機していました。大阪北部地震では関西エリアのDMATで対応できる規模の災害であったため、出動はなかったものの、各隊員が情報収集を継続しつつ、徐々に災害対策本部の規模を縮小しながら解散となりました。

北海道胆振東部地震では午前3時7分の発災で、深夜ではありましたが隊員間で連絡を取り合い、情報収集に努め出動に備えていました。

DMATでは下記に示す待機基準が定められており、このような事案が発生した場合にはいつでも出動できるように備えなければなりません。

- 1 東京都23区で震度5強以上の地震が発生した場合
- 2 その他の地域で震度6弱以上の地震が発生した場合
- 3 津波警報(大津波)が発表された場合
- 4 東海地震注意情報が発表された場合
- 5 大規模な航空機墜落事故が発生した場合

現在当院には17名のDMAT隊員があり、日頃より訓練に参加し、知識と技術の維持に努めています。11月には県内では過去2施設しか受講されていない、核・生物・化学物質・テロリズム等の特殊災害研修に参加予定です。最近では局地災害が増えてきており、いつ大規模災害が起きるか分かりません。有事の際には、訓練の成果を出すことができるように日頃より備えていきたいと思っています。

※1：広域災害救急医療情報システム

嬉野DMAT隊 活動について



嬉野DMATメンバー



出動態勢を整えるために
救急車内の点検実施

災害訓練について

西2病棟 中山由理奈

平成30年度の災害訓練を平成30年9月14日に行いました。天候がすぐれない中でしたが、例年同様、杵藤地区消防本部と協力して行うことができました。西日本豪雨では、嬉野で1時間に84.0mmの観測史上1位の雨を観測し、当院も一部浸水し被災しました。今回の大雨では、様々な情報ツールを用いて被害を予測し、早期に院内災害対策本部を設置して対応した事で、被害を最小限に抑えることができました。当院職員もこのような経験を通して各種災害に対して危機感も高まった中、今回の訓練になったのではないのでしょうか。今年度、5回目を迎えた災害訓練は院内職員130名と多くの参加者の中で実施でき、病院全体で災害に対する関心が高まっている事を感じました。

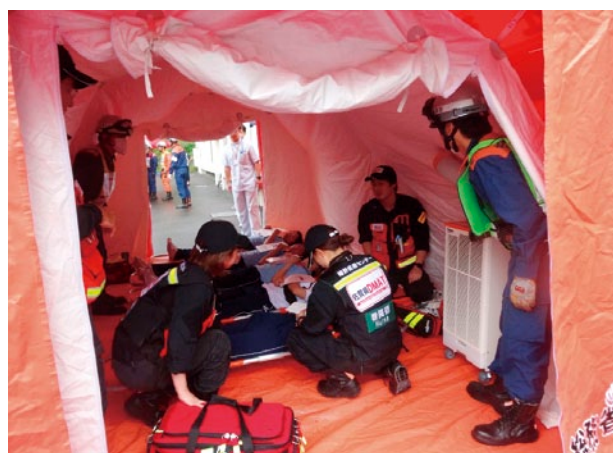
実動訓練までに、DMAT 隊員が中心となり災害学習会、机上訓練の準備を行いました。災害学習会においては、災害発生時の病院・スタッフの動きやトリアージ等についての説明を行い、机上訓練では実動訓練と同じ想定でスタッフの動きと本部との連携を中心に訓練を行いました。反省点や課題に対して DMAT 隊員で情報を共有したうえで、実動訓練に向けての準備を行いました。今回の訓練想定は、川登でのバス横転事故による多数傷病者発生事例でした。当院看護学校3年生には傷病者役や家族役で協力して頂き、臨場感あふれる訓練になったと思います。現場では、杵藤地区消防隊が現場本部を立ち上げ、傷病者の救出・搬送を行い、当院 DMAT 4名が救助・診療を行い、実際に当院への傷病者搬送も行われました。DMAT は本部運営や各エリアのコントローラーとして活動をし、必要時には各エリアの調整を行いました。訓練当日は、赤エリアとして使用予定である救急外来が、通常診療のため使用出来ず、本部で調整を行い診察場所の変更を行いました。診療エリアの当日変更は、災害訓練開始から5年目にして初めての状況でしたが、連絡体制が整い、スムーズに訓練を実施することができました。想定外の事象が起こることで、今まで気付かなかった事を見出すことができ、次年度への課題へ繋げることができました。

次年度は新病院移転もあるため、災害マニュアルやアクションカードも大きく変更になります。今後も災害拠点病院としての役割を果たす事ができるよう、災害部会メンバーが中心となり職員全体で取り組んで、実践に活かせる災害訓練を実施していきたいと思います。

災害訓練



本部立上げ・全体把握



DMAT 4名での救助・診療



各エリアに分かれて患者対応

嬉野医療センター附属看護学校より 平成30年度 学会参加を通じての学び

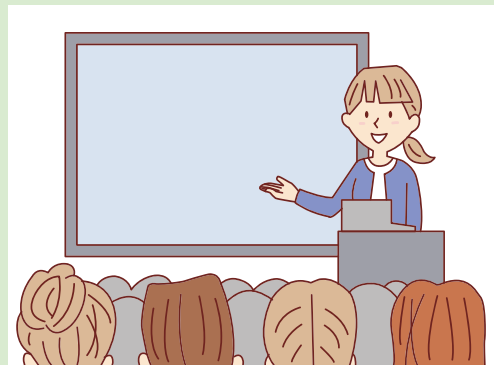
1年生：コ・メディカル形態機能学会

学校では学ぶことのできない話をたくさん聞き、とても貴重な時間を過ごすことができました。内容としては、難しいテーマもありましたが、グラフや写真などを使った説明だったため、とても興味深い研究ばかりでした。また、今回の学会参加は私たち看護学生が解剖生理学を修得する重要性を再認識でき、今後の学習意欲につながりました。



2年生：日本看護学会（在宅看護）

今まで研究されてきたエビデンスが在宅看護の実践や地域包括ケアシステムで活かされている實際を、研究発表や講演を通して知ることができました。さらに、私たちが日々学習している内容だけでなく、医療の最新情報・取り組みを学び続ける重要性を感じました。また看護研究に難しさを感じていましたが、現場で困っていることなどに対する様々な試みが発表されていて、研究に対する興味深さを持つことができ、有意義な時間となりました。



3年生：日本アディクション看護学会

私たちはこの学会に参加する直前まで精神看護学実習で学習していたため、人々が抱えている様々な生きづらさや、その生きづらさを生じさせてしまう社会環境の難しさなどをより身近に感じました。もう半年後には新人看護師として働き始める私たちですが、学会参加などで最新の知識を得ていくことの重要性とともに、日々の生活の中で人間性に磨きをかけ、社会人としての自覚を芽生えさせないといけないという意識を持ちました。



よりよい病診連携のために

地域医療連携室だより

平成30年度 鹿島藤津地区医師会合同懇親会

地域連携室室長 総合診療科 朝長元輔

7月12日に、大正屋において鹿島藤津地区医師会合同懇親会が執り行われました。地域の医師会の先生方と、嬉野医療センターの医師が「顔の見える関係」を作り、よりスムーズで良好な病院間連携を築くことがこの会の大きな目的です。当院に比較的近い嬉野温泉病院、近隣の医院の先生方から、塩田町、鹿島市、太良町に至るまで、たくさんの先生方にご参加いただきました。日頃は電話や手紙でやり取りをしている先生方と直接顔を合わせ、お酒を飲み交わしながらお話しできる機会はとても貴重であり、楽しい時間でした。個人的には、自分の高校の先輩・後輩が、会場の医師の中に何人もいると分かったことが新たな発見でした。十分な時間もなく、なかなか全ての先生方とお話しできることはできませんでしたが、会の初めに医師会の先生方は地区ごとに、また当院の医師は診療科別に自己紹介がありましたので、顔と名前くらいはお互いに分かるようになったのではないかと思います。全く面識のない医師とやりとりするよりも、お互いに顔を思い浮かべることのできる関係の方が、緊張もなく相談もしやすいでしょう。今後もより良い医療を患者様に提供することができるよう、より良い病院間連携を構築していきたいと思います。



地域連携室からの事前予約のお願い

外来受診が円滑に、患者さんの待ち時間短縮のために、ご紹介の際、医療機関からの事前予約を基本としております。

時間外、救急の紹介については、直接電話でのご連絡をおねがいします。患者さんのスムーズな受診の為に今後ともご理解のほどよろしくお願い致します。

新任医師のご紹介

10月1日付け採用

産婦人科
放射線科村上 亨 医師
小武 隆子 医師

五島列島タやけマラソン大会へ挑戦

放射線科 福ヶ迫拓也

2018年8月25日に開催された五島列島タやけマラソン大会に、放射線科職員5名で挑戦しました。美しい五島の夕陽を眺めつつマラソンを楽しみ、完走したご褒美に美味しい五島牛をや五島美豚を食べようというコンセプトの大会で、出場したことの無い私達は、その甘言に魅了され参加を決意しました。(男性3名がハーフ、女性2名が5km)

長崎港からジェットホイールに揺られること2時間、福江島にスタート1時間前に到着、ばたばたと受付、着替えを済ませてスタート地点に並びましたが、残暑厳しい折、また日陰も見当たらず、スタート前にもかかわらず、頭から首から汗、汗、汗……。

17:30 スタートの号砲。皆が一斉に五島牛を目指して走り出しました。美しい夕陽を眺めつつ優雅に走るつもりでしたが、開始1時間程は強烈な西日を正面から浴びながら激走、その後30分程度は夕陽を堪能できましたが、残りの時間は漆黒の闇の中、星空を観賞しながら走ったことを覚えています。



コースも、前半は比較的フラットでしたが、中盤から後半はアップダウンの連続で、街灯が少ないことも相まって、暗闇の中本当にゴールへ近付いているのか疑心暗鬼に陥りました。

軽い気持ちで参加したことを後悔しつつ、それでもリタイアだけはするまいと、エイドのすいかを頬張り、頭から氷水をかぶり、ひたすら前へ前へと足を運ぶこと3時間弱。島民総出の熱い声援にも後押しされ、なんとか制限時間内にゴールにたどりつきました。

ゴール後はビールを片手に念願のBBQ。食べきれないほどのボリュームの五島牛や五島美豚に

大満足し、さっきまでの後悔はどこへやら、また来年も走りたいという気持ちが込み上げてきました。

翌日は、五島のきれいな海を堪能、日々の仕事の疲れ、マラソンの疲れを癒して帰路につきました。

来年夏は、観光もかねて五島タやけマラソン大会に参加し、美しい夕陽や海、美味しい肉、魚、すいかを堪能されてはいかがでしょうか？



目指せ、マイケル・ジョーダン!! バスケット部員求む

こんにちは。嬉野医療センター 臨床工学技士 北村純一です。

毎週水曜日 18 時より当院看護学校体育館で嬉野医療センター バスケット部は活動しています。医師・看護師・臨床工学技士・薬剤師・放射線技師など多職種で、20 代から 40 代まで男女問わず、和気あいあいと約 40 名で活動しています。部員は初心者や選抜選手、フルーツバスケットしかした事がない人など様々な人が参加しており、毎回笑いが耐えません。

ほとんどが未経験者で、私もその一人です。三十半ばに差し掛かり、運動不足も合間って体重が増加し、周りから「太った」「お腹が出てる」と指摘されたため、ダイエット目的に参加しています。仕事の面では、普段接することの少ない部署の人とも仲良くなり、仕事で分からない事の相談など気軽にでき業務がやりやすくなりました。



また、食事会や他病院との交流試合、BBQ など様々なイベントを開催しています。今年の 4 月と 8 月には佐世保市総合医療センターと交流試合を行い、2 試合とも喜ばしいことに嬉野医療センターチームが勝利しています。11 月には第 3 回の交流試合を計画しています。

選手・監督・チアリーダー・マネージャーなど、参加理由は問いません。みなさんの参加をお待ちしています。お気軽に声をかけてください。



病棟紹介

東 4 病 棟

東 4 副看護師長 感染管理認定看護師 岩谷佳代子

東 4 病棟は心臓血管外科、循環器内科の病棟です。主に心臓の疾患を抱えている患者さん方が入院されています。一般病床 36 床と CCU 4 床を有しており、CCU は急性心筋梗塞や狭心症、重症心不全、心臓血管手術後の患者さんなどが集中治療を行うユニットです。スタッフは心臓血管外科医師 4 名、循環器内科医師 5 名、看護師長をはじめとする看護師 36 名、看護補助者 4



名です。平成 29 年度の心臓血管外科手術は 243 例、心臓カテーテル検査は 687 例、経皮的冠動脈形成術は 238 例と佐賀県西部のみならず、長崎県北部を含めた循環器治療における地域の拠点としての役割を担っています。昼夜を問わず緊急搬送される患者さんも少なくなく、患者さんの救命を最優先に考え、一分一秒を大切に日々の診療と看護を行っています。

心臓の疾患に対する治療は、手術やカテーテル、薬剤による治療を行います。食事や運動の制限など、再発予防のための日常生活管理も重要となります。私たちの病棟では、医師、看護師、薬剤師、リハビリテーションスタッフ、栄養士、医療ソーシャルワーカー、退院支援担当看護師が集まり、患者さんの課題を共有する「心不全カンファレンス」を行っています。そこでは、退院後も患者さんがその人らしい生活を送るために、それぞれの職種の専門性を生かしてできる支援は何かを検討しています。今後は、心不全再発予防に向け、外来通院される患者さんの日常生活に視点をむけた医師と外来看護師の連携を強化したいと考えています。

また、心臓の治療過程において重要なものの一つに「心臓リハビリテーション」があります。心筋梗塞や狭心症、心臓手術後の患者さんに対して、安静にしていた心臓へのリハビリを行うこ



とで、体力の回復をはじめ、社会復帰や再発予防を目指しています。運動機能の向上だけではなく、自信をもって体を動かせるような生活の質の改善を目指し、患者さん一人ひとりにあったプログラムを実践しています。医療ドラマさながらの個性的でエネルギー溢れるスタッフが一丸となって日々努力しています。

急性期の病棟で慌ただしい日もありま

すが、勤務時間外では他部署のスタッフとバレーボール大会などのスポーツを通して交流を深め、業務での連携にもつなげることができています。来年には新病院へ移転しますが、新体制になっても患者さんやご家族の心と体に寄り添える「ハートフルな医療の提供」を目指し、これからもチーム力を発揮していきたいと考えています。

部署紹介

医事・算定

経営企画室長 立石直樹

医事は「医療事務」といって医療費に関する事務を行っている部署で、主な業務は窓口業務・保険請求業務・統計業務・施設基準の申請などを行っています。

窓口業務とはカルテの基本情報の入力、外来診療の受付、会計業務、入退院の手続き及び会計業務、診断書受付、公費に関する手続きなどがあります。

保険請求業務とは1ヶ月分の診療行為により発生した診療データを全てまとめ、レセプトという明細書を作成して、審査支払機関を通じて患者さんの加入している保険（社会保険・国民健康保険）や労働災害保険、自動車賠償保険へ毎月請求を行う業務です。

統計業務とは請求した診療額を診療科別・病棟別に集計し月別・年度別のデータを作成する業務です。

施設基準の申請とは、病院は設備や職員の数によって請求して良い項目や金額が定められているため、当院がどの項目に該当しているかの届出することです。

その他に診療報酬制度は2年毎に改定されるため、そのたびに変更になる項目について院内への周知や届出を行っています。

今後とも診療報酬の正確な請求のためご協力をお願いします。



病院の あゆみ

新病院移転まで残り1年足らず
移転の経緯も含めて
振り返りを

part 3

概略（平成23年～平成28年）

平成23年5月：臨床研修指定病院（基幹型）
 平成23年7月：嬉野市より嬉野温泉新幹線駅周辺へ移転打診
 平成23年10月：地域救命救急センター開設
 平成25年4月：地域災害拠点病院
 平成25年5月：新病院移転計画締結・
 調印式（病院・機構本部・嬉野市3者）
 平成26年12月：入院支援センター開設
 平成28年10月：新病院本体工事着工
 平成28年
 6月・7月・8月：院内WiFi開通・外来自動精算機・案内機導入



「うれしの葉隠館」
家具家電完備。当時では県内初の
臨床研修医宿舎でした



建設途中のヘリポートと完成後のヘリポート。傾斜に建っています



備品搬入前の「救急救命センター」内部
同じ広さなのに広く感じます



平成25年3月29日購入
ベースはハイエースだそうです
ナンバーは「8888」

マスコットキャラクター
「ヘリぼーとん」も誕生！
仕事はヘリの誘導です。



案内機稼働。案内の用紙も配布
運用開始時はいろいろトラブルもあり…



医療費自動精算機・再来受付機



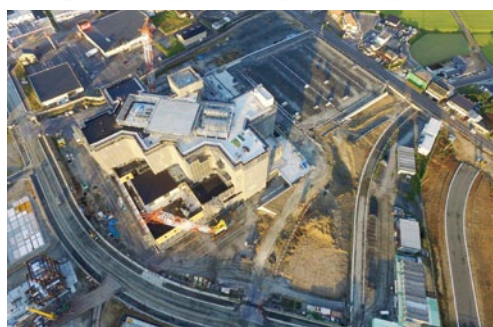
新病院移転調印式
地元テレビと新聞にも
掲載されました



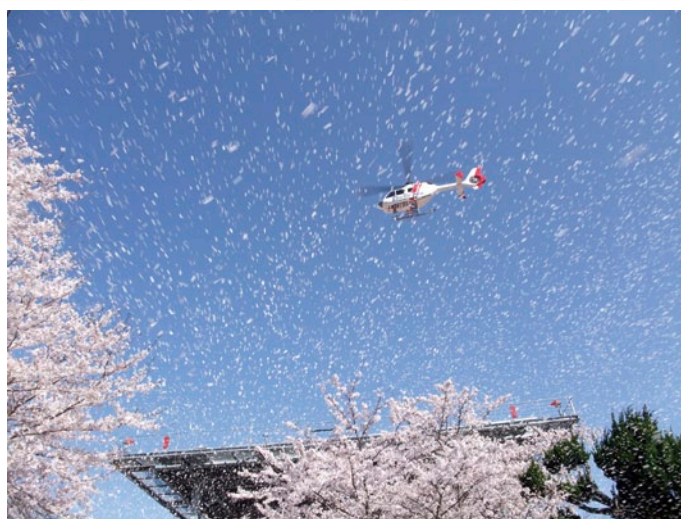
新病院建設前の予定地。なにもない



新病院計画決定に伴い、
外来フロアに模型が登場



10月現在の様子。外観は完成し内装工事中
病院は2.5km先へ移動し4階建てから8階建てへ
敷地面積は115,500㎡から60,000㎡へコンパクト
になります



31号表紙「新・うれしの春絶景」
24年度県展にて佐賀県教育委員会賞をもらいました

新病院の完成までの道のりは、
また広報誌にて続報します！

80キロカロリーアイス！ ご存知ですか？

(糖尿病茶話会にて試食していただきました)



嬉野医療センターでは年に2回、昨年度入院中糖尿病教室に参加した患者を主な対象者として、外来糖尿病教室を実施しています。夏は茶話会、秋は食事会と題し、おやつや食事を楽しみながら、多職種による講義やグループワーク、運動を取り入れた内容となっています。今年度は7月27日に茶話会を開催し、栄養士からは「アイスが食べたい！そんなときは・・・」というテーマで、実際に80kcalのアイス SUNAO を食べて頂きながら、講義やクイズを行いました。通常アイスを食べると糖質が多いため、血糖コントロールを乱す原因となりますが、SUNAO は食物繊維や人工甘味料を使用して作られており、糖質を10g以下に抑え、糖尿病の方でも高血糖を起こしにくい商品となっています。実際にアイスを食べた感想は、「1年ぶりにアイスを食べました！美味しいです」や「甘さ控えめでちょうどいい」という反応もあれば、「物足りない」「やっぱり普通のアイスが美味しい」という声も聞かれ、普段からアイスや間食をしている度合いにより、感じ方が異なることが印象的でした。今年は糖尿病の方でもアイスが食べたくなるほど、例年にない猛暑でした。参加者の約7割がSUNAO 初体験でもあり、今回の会が参加者の食事療法の一助になればと思います。

(文責：栄養管理室 大野仁美)

嬉野医療センター クリスマスコンサートを開催します

緩和ケア委員会

12月6日(木)、「嬉野医療センター クリスマスコンサート」を開催いたします！

このイベントは、当院入院中・通院中の患者様とご家族に季節を感じてもらいたい、病院全体で一緒に楽しむことができるイベントをやっていききたいという思いから、緩和ケア委員会が主体になり、企画・準備を進めているものです。

当日は、嬉野讃歌エコースさん、看護学校の学生さんによるコンサートを予定しております。寒い寒い嬉野の冬、こころあたたまる時間を一緒に過ごしませんか？

たくさんの方のご来場をお待ちしております。

(文責：臨床心理士 佐藤美紀)



編集後記

暑かった夏も過ぎて、あっという間に秋がやってきました。夜と朝の冷え込みの変化には驚くばかりです。新病院の移転まで8ヶ月あまりとなり、職員も落ち着きがなくなってきました。さて、今季号から連携室にて発行していた「地域連携室だより」を広報誌に統合することとなりました。今季号から誌面に連携室からのお知らせを掲載していきます。嬉野医療センターのすべてをお届けできる媒体として、広報委員一同頑張っていきたいと思いますので、これからも広報誌「うれしの」をよろしく願い致します。

(広報委員会)